

北海道穂別高等学校

課程 全 日 制
学科 普 通 科
生徒数 85名

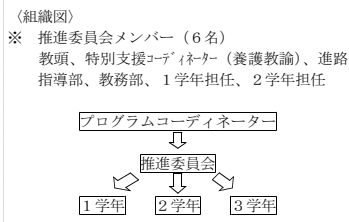
1 取組の特徴

コミュニケーションスキル育成のトレーニング（構成的グループエンカウンター（SGE）やソーシャルスキルトレーニング（SST））を実施することにより生徒にコミュニケーションスキルを身に付けさせ、望ましい人間関係形成能力を培うとともに、Hyper-QUテストによりその成果を検証する。

2 取組のねらい

昨年度、ステップアップ・プログラムの取組が1年生に限定したのものとなってしまったことや、取組が年度当初からであったことを踏まえ、今年度は次のとおり取組を進めることとした。

- 対象学年を広げ、1・2学年を中心に年度当初から実施する。
- 生徒のコミュニケーションスキルをより一層高めることができるよう、プログラム内容を検討し、工夫・改善する。
- 教員研修を通じて、教員自身のコミュニケーションスキルを高めることにより、LHRや授業において生徒と良好な人間関係を作っていく。



3 取組の経過

<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニング（1・2年） <p>【5月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニング（1・2年） <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUテスト実施（1・2年） ・ソーシャルスキルトレーニング（1年宿研） <p>【7月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーショントレーニング（SGE、SST）（1年） ・ソーシャルスキルトレーニング（2年） <p>【9月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーショントレーニング（SGE、SST）（1年） ・教員向け校内研修会 ・ソーシャルスキルトレーニング（2年） 	<p>【11月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーショントレーニング（SGE、SST）（1年） ・ソーシャルスキルトレーニング（2年） ・Hyper-QUテスト実施（1・2年） <p>【1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーショントレーニング（SGE、SST）（1年） ・ソーシャルスキルトレーニング（2年） ・教員向け校内研修会
---	--

4 取組の内容

1 コミュニケーショントレーニング（SGE、SST）（7月実施、1学年）

ア ねらい 「かかわりの技法」のトレーニングを行う。

イ 内容

- ・青少年のコミュニケーションの問題点と人とうまく関わるためのコミュニケーションの大切さについての説明
- ・「かかわりの技法」の演習として、挨拶の練習（相手の目を見て、にっこり笑って「こんにちは」）や二人一組で簡単な会話練習（聞く側：「うなずき」、「あいづち」）

ウ 成果

- ・生徒にコミュニケーションの大切さを理解させることができた。

2 コミュニケーショントレーニング（SGE、SST）（11月実施、1学年）

ア ねらい コミュニケーションスキル能力の育成を図る。

イ 内容

- ・皆で挨拶を交わそう
- ・「気持ち」を表現する演習
- ・「うまく仲間に入ってみよう」の演習
- ・「会話上手は聞き上手」の演習
- ・「進路の相談～相手の話をしっかり聴く～」の演習
- ・聞き手役、話し手役の経験を通して、アクティブリスニング体験



ウ 成果と課題

- ・他の人と関わる前に自分を知ることが大切であること、人間関係を作っていくためには、スキルが必要なことを生徒に学ばせることができた。

3 教員向け研修

ア ねらい

学級適応検査の分析方法を学び、学級の置かれている状況を的確に把握するとともに、非言語について理解を深める。

イ 内容

- ・Hyper-QUテストの分析を行い、具体的な支援策を検討した。
- ・4人1グループになって、実際に「ひとつの時計」のエクササイズを体験した。

ウ 成果

- ・クラスの置かれている状況を感覚ではなく科学的視点で理解し、どのような視点で支援を行っていくべきか見通しを持つことができた。
- ・特別活動や授業に、コミュニケーションを行う演習を多く取り入れていくことの大切さを理解することができた。
- ・「ひとつの時計」のエクササイズを通して、非言語について理解を深めることができた。



5 次年度に向けて

1 成果

ア 学級適応検査等の結果

【1年】

① ソーシャルスキル 対人関係の基本的なマナーの定着を示す数値が高い

	1回目	2回目	全国平均
配慮	35.4	35.2	33.1
かかわり	30.5	30.5	29.4

② 学級生活満足群 1回目45%→2回目55%（+10%）

③ 学校生活意欲の総合点 1回目75.0、2回目74.5（全国平均69.2）

【2年】

① 要支援の生徒数 1回目4名→2回目2名（-2名）

② 承認得点 1回目と比較して増加した者10名、減少した者3名

イ その他の指標による評価 前期末の一人当たり欠席日数の減少（H22年度1年）2.6日→（H23年度2年）2.25日（H23年度1年）2.09日

ウ 生徒の変容した姿

- ・生徒はエクササイズを通して、他者との適切なコミュニケーションの大切さを理解し、人間関係をうまく形成できるようになった。
- ・コミュニケーショントレーニングを、今後の「自分の将来」「クラスとの関わり方」「友達関係」に活かしていこうと肯定的に考えている生徒が増えた。

2 課題

ア 1学年1学級で3年間を過ごすこととなり、人間関係が固定化されてしまうことから、新しい人間関係を築いていくことが難しく、学んだスキルを活かす場面が少ない。

イ 実施時間確保と効果的な実施の観点から、プログラムの一層の工夫・改善が必要である。

3 次年度に向けて

ア プログラムコーディネーターの配置がなくなることから、本校職員が主体となって、これまでの取組を参考にしてプログラムを実施する。

イ 生徒のコミュニケーションスキルをより一層高めるため、各学年におけるプログラム内容を再検討し、工夫・改善を継続する。

ウ 生徒をボランティア活動に参加させるなど、学校外において、学んだスキルを活かす場面を確保する。